

# 奈良町にぎわい通信

Vol.16

二〇一六・立秋〜処暑

発行  
奈良町  
にぎわいの家





増田宗津社中による「にぎわい体験茶会」お点前を拝見してから自分で点てます。



「町家講座」は梅尾峻弘、厚弘さんによる畳のお話



浴衣姿も涼しい社中の方々。

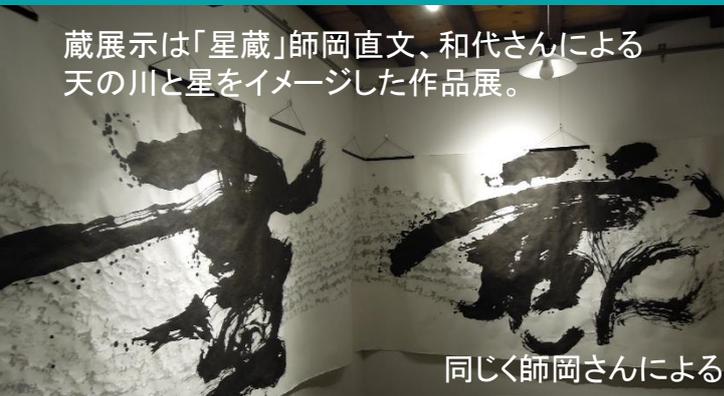


かまど体験。この瞬間が一番嬉しいかな？！



畳の断面や畳表のサンプルに見入るお客様。

## 奈良町にぎわいの家 7月のイベントから



蔵展示は「星蔵」師岡直文、和代さんによる天の川と星をイメージした作品展。



同じく師岡さんによる「アート書でうちわ作り」



皆さん、なかなかの腕前！



すぐに縫えました！

足踏みミシン体験。詳細はレポートを。



格子によく似合いますね。



「町家パネル展」は庭がテーマ。

にぎわい足踏みミシン体験！このミシン、私の夫の祖母正子さんの物で、昨年百歳で天寿を全うし、このミシンを譲り受けました。この正子さん、戦前中国に渡り、戦後、着の身着のまま日本に帰国。中国では手縫いで毛布から家族のコートを作ったり、昭和30年以降ミシンを手に入れ、カーテンや家族の服など、丁寧にミシンで縫っていたそうです。

さて、そのミシン。コツはミシンの動きと踏む足を合わせること。参加者の方は、初めてなのにうまく合わせられる方、合わずに何度も反対回りしてしまう方、いろいろでしたよ。国籍も台湾、フランス、中国、アメリカなどいろいろ。たくさんの方がミシンに触れ、その懐かしい感触を味わいつつ縫って下さいました。途中、突然針が動かなり、独りあせっていると、縫うのを待っている中国の女の子が「だいじょうぶ」と言ってくれました。その後無事復活し、ほっとしました。

手作りしなくても、安く何でも買ってしまう昨今ですが、自分の手で何かを作り出す。そこには心豊かな時間が流れているように思います。また時々、ミシンをカタカタさせているかもしれません。

そんな時は 一緒にカタカタさせてみませんか？



・出来上がったぬか袋。日本の文化をお土産に。



いつもは受付前で皆さんをお迎えしているミシン。多くの方が、懐かしい！と声をかけてくれます。



## つし2階アート企画 vol.6

### 中尾めぐみ～小さな部屋で

(協力...奈良アートプロム)



奈良は都祁村で生まれ、きたまちで制作を続ける、中尾めぐみさんの作品展。つし2階の天井が近い小さな空間に、自然を感じる空間が立ち上がりました。森のような水際のような...現実の風景のような夢のような...。中尾さんの内部に重層する奈良の風景が、新たな情景となった作品。8/27(土)まで。

## 奈良町にぎわいの家・二十四節気企画 オリジナル短歌&書&マークをお楽しみください。

短歌  
喜多隆子(歌人)

書  
逢香(書家)

節気マークデザイン  
金田あおい(藍寧舎)



「立秋」



驟雨過ぎし春日の森に法師蟬  
ひとつ鳴きいつ秋立つゆふべ

驟雨とはにわか雨のこと。にわか雨が春日の森に降った後、法師蟬、ツクツクボウシが鳴きだした。暑い空気が、驟雨によつてひんやりとした秋の空気になった。立秋の夕暮れ、ツクツクボウシの声が、次の季節へのかけはしのように聞こえる奈良の森の歌です。

# 事務局だより

2016  
処暑号

夏に思う

事務局長 藤野正文

8月、二十四節気では大暑が過ぎ立秋、そして処暑。日差しも少し柔らか？になり、奈良町では過ぎる夏を惜しむようにセミが鳴いています。日が陰るとエアコンの冷たい風ではない爽やかな風が町家の空間を通り抜けることもあります。

エアコンのないほんの少し前なら、仕事を終え夕飯も終わって町のあちらこちらで道端に椅子を出して、近所や道行く人にあいさつしながら、まちを通り抜ける風を感じながら、涼むこともありましたね。豊かになったおかげで今はそれぞれの家に隔離されエアコンの効いた空間で過ごすようになりました。それぞれの閉鎖された自宅で暮らす日常生活が一般的になり、道を歩いていてもよそよそしい、疎外感さえ感じる風景になってきたようにも思えます。

「戦後の発展の中で物質的な豊かさと引き換えに心の豊かさを失ってきた」と常々言われていますが、社会経済や価値観の大転換が始まったこの8月は、「私たちはどんな生活を目指してきたのだろう、私たちが生きていくうえで本当に何が大切なんだろう」と、思い至る季節でもあるように思えます。

また、奈良町という日本でも稀有



①手作りの貸出用うちわ。②土用干し。日光も栄養ですね。

「ほしいなあ」と上々の評判。え？減ってる？！

③今年も蚊帳を吊りました。海のような青が涼やか。



## にぎわいの夏〜三景

に長い歴史や営みが綴られてきた地域で、その価値さえ見失いがちになります。継承しながら、その価値を新たな営みにつなげ、まちの未来を創造することを模索していかなくてはならない時期に来ているのではないかと思います。

9月から奈良町にぎわいの家も企画して、奈良町を舞台に現代アート展「ならまちアートプロジェクト」が始まります。会場をひと巡りして「奈良町の新たな風」を感じていただければ幸いです。

## にぎわいの家・お掃除の巻!

田中館長に町家掃除の手ほどきを受けながら、皆で磨きました。ぬか袋の効果に、すごいなあ！と皆で感心。木をなでているとなんだか和みます...



ぬか袋を持っている手もきれいになると いいなあ。



奈良町にぎわいの家二十四節気マークから



立秋 8/7〜  
暦の上の秋。

八月の節気



処暑 8/23〜  
台風の多いころ。

夏、にぎわいの家にとって大変な仕事の一つが水まき。夕立が来ないかなあ...と毎夕、切望。とは言え、この頃のゲリラ豪雨は夕立のような情緒はないですね。

イベント、講座情報は、ホームページ、フェイスブックからご覧になれます。是非、ご参加ください。

### 奈良町にぎわい通信vol.16

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体  
発行人...二十軒起夫  
編集・構成...おの・こまち  
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一  
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館  
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

http://naramachi-nigiwainoie.jp/